

勝福寺史編纂を終了するにあたり

勝福寺史編纂委員長 渡邊 重昭

親鸞聖人七百五十回御遠忌実行委員会で、「勝福寺の歴史について、この機会にもっと知りたい」という意見が出て、その担当を広報委員会が受け持つことになりました。ちょうど私が、四日市の町並みガイドをしたりして歴史に関心があったので、その代表につくことになりました。

正直、大変な役が回ってきたなーという気持ちもあったのですが、ご先祖が大切に守ってきたこの勝福寺の歴史について学ぶ良い機会だという思い直し、引き受けることにしました。

とは言っても、作成の過程で古文書を読み解く必要があるように、私にはその力がありません。その時は読める人を見つけて頼むしかない、腹をくくっての出発となりました。

しかしその心配も要らぬことでした。残念ながら古文書は戦争中の混乱の中で消失してしまったようで、残っていませんでした。この本の中にも書かれている真勝寺騒動の中心的な役割を果たした勝福寺の記録が残っていないということは、宇佐の歴史を語る上で大きな損失でありましょう。

さて、寺宝を整理し、カメラで撮影する作業中に大きな発見がありました。

先ず、御本尊の作成年代などが分かりました。さらに、勝福寺の旧本尊と伝い伝えられている阿弥陀如来像は真勝寺伝来と伝い伝えられている御本尊よりも古く、文化財としても大切な仏像であることが分かりました。

次に、四日市別院の前身である真勝寺をめぐる起きた真勝寺騒動の時に大きな役割を果たした勝福寺の住職の名前が、これまでは「了仙」か「了山」かはっきりしなかったのが、親鸞聖人の掛け軸の裏を撮影するとき願主「了山」とはっきり書かれていたことで、これまでの疑問が払拭しました。

それから、古い記録は残念ながら残っていませんでしたが、知道住職になってからの記録は、総代会の議案書や寺報の「響流」などにきちんと残っておりました。その中には、知道住職と純子坊守が勝福寺に帰ってきた時の思い、「勝福寺が念仏の僧伽となることを願って」いたことが「響流」に書かれていました。

その願いで門信徒の方々を引っ張り、導いて下さったかと思うと、その決意は十分に達成しているのではないのでしょうか。改めて、お二人の勝福寺での三十一年間の活動に頭が下がるとともに感謝の思いでいっぱいです。

最後に、「寺史作成」の作業が終わるといふ安心感や喜びと共に、今からの私の人生には、まだまだ「学ぶこと」が沢山あることを改めてわかしめてくれました。

このたびのご縁、大変ありがたうございました。

参考文献

- 『四日市年代記』中山重紀校注
- 『豊前四日市東西別院の歴史』国東利幸著
- 『渡辺家歴代小伝』中島三夫著
- 『渡辺家系小伝書』渡邊喜衛門網誼編
- 『豊州城堡記』（別府大学蔵）
- 『福円寺貞吟文書』

ほかに、大分県立先哲資料館主幹研究員・櫻井成昭氏に、渡辺家の歴史について助言をいただきました。心よりお礼申し上げます。

勝福寺史編纂委員

- 香田紀子
- 後藤啓一郎
- 藤谷純子
- 藤谷知道
- 松本知代
- 向野 茂
- 渡辺和義
- 渡辺重昭（委員長）
- 渡辺浩晃

（あいいうえお順）



勝福寺HP

響流山勝福寺 ーその歴史と歩みー

= 非売品 =

発行日 令和元年11月23日

発行者 響流山勝福寺

〒879-0471 大分県宇佐市大字四日市1426番地

TEL 0978-32-1806

E-mail kouru@cd6.so-net.ne.jp

HP <http://kouruzan-shoufukuji.com/>

編集 勝福寺史編纂委員会

印刷 アルプスPPS

東京都江東区南砂1-10-5
